

授業にピタッ！とデジタル教科書

こんな実践
あんな実践

歴史

② 近世の学習でのデジタル教科書活用例

～単元の課題意識と学習の見通しをより効果的にもたせるために～

中野区立中野東中学校 主任教諭 中濱 佑太(なかはま ゆうた)

◆単元名：第4章 近世の日本と世界

「学習を始めよう～近世の暮らしと社会」(教科書 pp.95-97)

◆本時の目標：

- ・資料『江戸図屏風』の読み解きを通して、近世の社会の変化とその原因について、予想したり考察したりする。
- ・4章で追究する学習課題を把握し、課題解決のためにどのような学習が必要か見通しをもつ。

《本時の展開例》

| | 学習活動 | 留意点 | デジタル教科書・教材 |
|--------------|---|--|---|
| 導入 (5分) | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学習した人物の中で、この時代に登場する人物を想起させる。 ・p.95 下「これから学習する時代」を見て、「近世」と呼ばれる時代区分の年代を、把握させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・第4章を一通り確認させ、小学校で登場した人物を探させる。 ・室町時代や戦国時代、安土桃山時代の移り変わりの後、江戸時代が長く続いていることに着目させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書で年表をスクリーンに提示する。 |
| 展開 (35分) | 単元を見通す問い：平安時代以降の武家政治では、次々と権力が交代したにもかかわらず、なぜ江戸幕府は長い間政権を保ち続けられたのだろうか。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・pp.96-97の資料「江戸のまち」から、気づくことを自由に挙げさせる。 ・中世の社会から変化したことについて、①幕府政治、②外国との関係、③産業や交通、④人々の生活の四つの観点からまとめさせる。 ・生徒を4人指名し、観点ごとに読み取った事柄を発表させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな生徒の学習の入り口として、多様な意見を受け入れる。 ・p.94「時代の変化に注目しよう！」を参考にさせる。 ・生徒の実態に応じ、『江戸図屏風』に描かれたできごとがそれぞれどのような歴史的事象を表しているか、調べさせる。 ・絵のどの部分から読み取ったか、根拠を明らかにさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を使い、資料「江戸のまち」をスクリーンに拡大して提示する。 |
| まとめ (10分) | <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通じた問いに対する、この時点での考えを、振り返りシートに記入させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・四つの観点の中で、最も江戸幕府の発展の要因となったものはどれか、考えさせる。 | |

◆指導にあたって：

○本単元は、学習指導要領（歴史的分野）大項目 B 中項目(3)「近世の日本」の導入にあたる。

現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、単元や題材などの内容的・時間的なまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面の計画的な設定が求められている。また、各時代を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することも求められている。

以上のことを踏まえ、本指導案では、「中世から近世への社会の変化を、『江戸図屏風』を題材として生徒に見つけ出させること」、「この中項目（章）を貫く課題について、これからどのような視点で学習を進めていくか、見直しをもたせること」をねらいとしている。

○課題を追究する上で欠かせない「見方・考え方」をより深く育むために、デジタル教科書をはじめとするデジタル教材の活用が有効であると考え。本時では、まず p.95 下の年表を用いて「近世」という時代区分の年代を確認させ、p.95 の資料をもとに、前の時代との類似や差異を予測・考察させる。本単元は第2学年の後半に取り扱うことが多い。発達段階も踏まえ、教科書の文章や資料から予想の根拠を挙げさせたり、因果関係についてより深く説明させたりする活動も考えたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

○章の扉のページには、必ず年表「これから学習する時代」が示されている。デジタル教科書では、この部分が拡大できるようになっている。歴史的分野で最も重要な「どの年代のできごとか」ということを把握させるために、授業の最初に提示したい。単元を見通す問いにも関わる、「江戸時代が 265 年の間続いた」という事実についても、視覚的な理解を助けることが期待できる。

(右)デジタル教科書 p. 95
「これから学習する時代」

| 年代 | 1500 | 1600 | 1700 | 1800 | 1850 |
|----|------|---------|------|------|------|
| 日本 | 室町時代 | 安土・桃山時代 | 江戸時代 | | |
| 中国 | 明 | | 清 | | |
| 朝鮮 | 朝鮮 | | | | |

○『江戸図屏風』は、17 世紀前半の江戸時代の街並みや人々の生活の様子が描かれた資料である。デジタル教科書では、特に注目させたいポイントを拡大して提示することができる。生徒が社会の変化について発表する際にスクリーンに提示することで、どの点に着目したかを全体で共有しやすくすることができる。

(右)デジタル教科書 p.96 「江戸のまち」



◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

○『江戸図屏風』から読み取った事柄がどのような歴史的な事象と関わっているか、第4章の文章の記述やさまざまな資料を根拠として、生徒に説明させることもできると考える。生徒が根拠とした資料をスクリーンに提示することで、発表の質を高めることが期待される。

○多角的な考察を促すために、社会の変化が幕府、武士、庶民のそれぞれの立場にどのような影響を与えたかを、立場ごとに考察させることも考えられる。